学生コーディネーター企画

1day ボランティア 報告

2019/11/9 ~12/14

1dayボランティア2019

11月9日から12月14日にかけて、「1dayボランティア2019」を実施しました。この企画は、「ボランティアに関心はあるけど、一人で始めるのは不安…」「継続できるか心配」といった学生に対して、1日から始められるボランティア活動の機会を提供することで、“はじめの一歩”を踏み出してもらうことを目的としています。

今年は、16名の学生が自分の関心に沿った活動先を６分野７団体の中から選び、1日体験のボランティア活動を行いました。活動の事前・事後には、活動と連動した学習を行い、ボランティア活動について学んだり、体験したことを振り返ったりしました。

本企画では、学生コーディネーターが主体的に企画・運営に関わっています。首都大生のボランティアに関するニーズについて考え、話し合ったうえで、活動先との調整をしたり、全ての活動に同行して参加者をサポートしたり、事前学習の企画・運営や事後学習でのファシリテートを担当したりしました。

■事前学習

11月9日（土）、91年館多目的ホールにて、1dayボランティアの「事前学習」を実施しました。この「事前学習」は、活動前にボランティア活動についてイメージを整理し、多角的な視点からその活動の社会性／公益性について考えることや、自身の動機を明確にすること、その動機と活動の社会性をつなげて考え、自身の目標を設定することを目的として実施しています。

昨年度までは、本センターのアドバイザーの先生に講師をご担当いただいていましたが、今年度は、実施内容の準備や当日の全体進行、グループワークのファシリテーター等の役割全てを学生コーディネーターが担当し、実施しました。

グループワークの中では、自分が選んだ活動に対する他者の様々な考えや問題意識を知ることにより、新たな問いや考えが生まれたり、意欲が更に高まったりしたようでした。

事前学習の最後には、「目標宣言」として、今回の活動を通して何を達成したいか、どのような点に注目して活動したいか、終了後にどのような状態になっていることを目指すか等を具体的に書き、活動先ごとのグループで、それぞれ発表しました。

■活動

参加者は、6分野・7団体の活動先から自身の関心に沿って活動先を選び、ボランティア活動を行いました。

東京八王子ビートレインズ

スポーツ分野では、八王子市を拠点としたプロバスケットボールチーム「東京八王子ビートレインズ」のホームゲームで、試合運営補助の活動をしました。

首都大生のボランティアが担当した役割は、「チケットもぎり」「場内アテンド」「モッパー」です。全体を通して、会場の盛り上がりを肌で感じ、参加学生も楽しみながら活動することができたようでした。「場内アテンド」では、活動を通じて、お客さんと積極的に関わることができ、チームが地元に愛されているということを感じました。地域に根ざしたチームならではの観客とチームの距離の近さを感じ、スポーツと地域のつながりについて、改めて考える機会となりました。

（学生コーディネーター　宇賀神）

東京都多摩障害者スポーツセンター

障がい者スポーツ分野では、多摩障害者スポーツセンターが実施している「トランポリン」と「のびのび体操クラブ」の活動に参加しました。

「トランポリン」の活動では、トランポリンの昇降補助やレクリエーション補助を担当しました。参加した学生からは、トランポリンを飛び終わった方に「いいね」と声をかけたら微笑んでくれて、ちょっとした声掛けでも相手に伝わるということが体感でき、とても嬉しかったという感想があがりました。

「のびのび体操クラブ」では、重度の身体障がいのある児童の体を、介助者の方とコミュニケーションをとりながらほぐしました。障がいのある方と直接関わることによって、普段の生活における障がいのある方との関わりを考えるきっかけにもなりました。

（学生コーディネーター　神保）

JUON（樹恩）NETWORK

環境分野では、JUON（樹恩）NETWORKが行っている奥多摩での活動に参加しました。台風の後ということもあり、土砂崩れで道が通れない箇所もありましたが、受入団体の方が

安全に配慮しながら、森を案内してくださいました。基本的な道具の使い方を学んだ後には、壊れてしまった橋を作り直すために、大きな木材を全員で協力して運びました。慣れない作業が多く大変でしたが、森に関するお話を団体の方からお聞きすることができ、とても充実した一日を過ごすことができました。

初めて活動に参加した首都大生は、今までよりも森林保護に興味をもつことができたと話しており、今後の活動に繋がる良い体験になったのではないかと思います。

（学生コーディネーター　伊藤）

八王子市立愛宕小学校

子ども分野では、八王子市立愛宕小学校で「授業補助」及び「放課後子ども教室」の活動を行いました。

【授業補助】

授業補助では、実際に小学校の授業に入り、子どもたちが授業の内容を理解できるようにサポートをしました。授業の内容が分からない子どもに、分からない箇所の説明をしたり、授業に集中できていない子どもに声をかけることが主な活動となりました。

放課後子ども教室とはまた違った、学習に取り組む子どもたちの真剣な姿が見ることができました。そして、何よりも「分かった！」と嬉しそうな顔をする子どもたちの姿がとても印象的でした。

学校現場や教育について深い学びが得られ、大変有意義な活動となりました。

（学生コーディネーター　宮崎）

【放課後子ども教室】

放課後子ども教室では、校庭や教室で活動しました。校庭での活動では、子どもたちと一緒に鬼ごっこをして遊んだり、最近の出来事について話したりしました。教室での活動では、子どもたちの宿題を手伝ったり、お手玉やコマ回しをしたりしました。

子どもたちの方から積極的に話しかけてくれたので、初対面の子どもともすぐに打ち解けることができました。「遊び」を通した活動が多く、子どもたちと同じ目線で関わることができる機会になったと思います。

（学生コーディネーター　藤井）

日野市立みなみだいら児童館ぷらねっと

子ども分野の活動として、「日野市立みなみだいら児童館ぷらねっと」の通常活動に参加しました。

首都大生２名が参加し、朝の９時半から夜の７時まで、１日中子どもたちと一緒に遊びました。児童館には、朝から多くの小学生が集まっており、「野球」「一輪車」「人生ゲーム」「トランプ」等、様々な遊びをしています。「鬼ごっこ」をした時には、それまで別々に遊んでいた子どもたちも集まってきて一つになる等、その場その場で子どもたち同士の新たな交流の場ができていました。　夕方には、児童館に来館してきた高校生と、「UNO」や「ボードゲーム」をしながら、様々な話をして盛り上がりました。

児童館には、赤ちゃんを連れた親子から高校生まで、幅広い世代の利用者が訪れていました。それだけでなく、利用者と一緒に交流しようと私たちのような大学生や社会人も集まっており、児童館が多くの人たちにとって安心できる“居場所”になっているということを実感しました。今回、私たちもその輪の中に入ることができ、また行きたいなと思える活動となりました。

（学生コーディネーター　棚橋）

スープの会

路上生活者支援の分野では、「スープの会」の活動に参加し、新宿駅周辺に暮らす路上生活者の方々にお味噌汁を配ったり、お話ししたりしました。

「スープの会です。お味噌汁いかがですか？」という一言から、新宿という大都会で、人と人の出会いが生まれます。何かきっかけがないと、一人で路上生活者の方に声をかけることは難しいですが、自分もスープの会のボランティアの一人として、1dayボランティアの活動先として、出会いの場づくりの一端を担うことで、関心のある学生が参加できるようなきっかけをつくることができました。

出会いを通じて生まれる人とのコミュニケーションから、多くのことを学ぶとともに、この出会いを通じて路上生活や社会について考えるきっかけとなりました。

（学生コーディネーター　石川）

介護予防クラブLOCO

高齢者分野では、足立区にある「介護予防クラブLOCO」で活動しました。

利用者の方々と、「体操」「ノルディックウォーキング」等の運動をしたり、「麻雀」「花札」といったゲームをしたりすることが主な活動内容でしたが、普段関わりの少ない高齢者の方々と、ゲームや会話を通じてコミニュケーションをとることで、お互いに刺激を受け合う時間となったように思います。

参加学生からは、“もっと多くの方々と話したいと思った”、“思っていたよりも会話することができていい経験だった”などの声がありました。

課題としては、施設側との連携が上手く取れず、施設の意義やボランティアに望むこと等を伺う時間が少なかったため、次回以降は今回の気づきを生かして改善していきたいと思います。

（学生コーディネーター　大貫）

■事後学習

12月14日（土）、再び91年館多目的ホールに集まり、1dayボランティアの「事後学習」を行いました。

「事後学習」では、参加した活動について振り返り、他のメンバーと共有することで自分自身の想いと向き合ったり、多角的な視点からボランティア活動の効果と意義を考えたりすることを通して、参加者一人ひとりが体験を学びと成長につなげられるようにしています。

「ココロ」の振り返りでは、活動する中で感じたポジティブな感情やネガティブな感情等、一人ひとりが感じたことをまずは自分自身で振り返り、その後、グループで共有しました。同じようなことを感じていた人もいれば、自分とは全く異なる気づきがあったり、より活動の意義を深く理解するきっかけになったようでした。

「アタマ」の振り返りでは、同じ活動をしたメンバー同士で集まったグループで、参加した活動の効果や意義について、今回の体験や事前学習で話し合い、まとめたものをもとにして、できるだけ多く考えを出し合いました。その後、その考えを受け入れ団体の方を交えながら、①ボランティア自身 ②課題の当事者・活動の対象 ③活動する組織 ④地域・社会の4つに分類することで、多角的にボランティア活動の効果・意義について考えました。

参加した学生は、事前学習やボランティア活動を経て、様々な考えや思いを知ることで、今まで気づかなかったような自分や社会の一面を知ったり、自分の考えをより深めたりすることができたようです。

「事後学習」の最後には、参加者一人ひとりに1dayボランティア2019の修了証をお渡ししました。

～1dayボランティア2019　活動先一覧～

活動分野	受入団体
子ども	八王子市立愛宕小学校　／　日野市立みなみだいら児童館ぷらねっと
スポーツ	東京八王子ビートレインズ
障がい者スポーツ	東京都多摩障害者スポーツセンター
環境	JUON（樹恩）NETWORK
高齢者	介護予防クラブLOCO
路上生活者支援	スープの会